

安位寺殿御自記

二十五

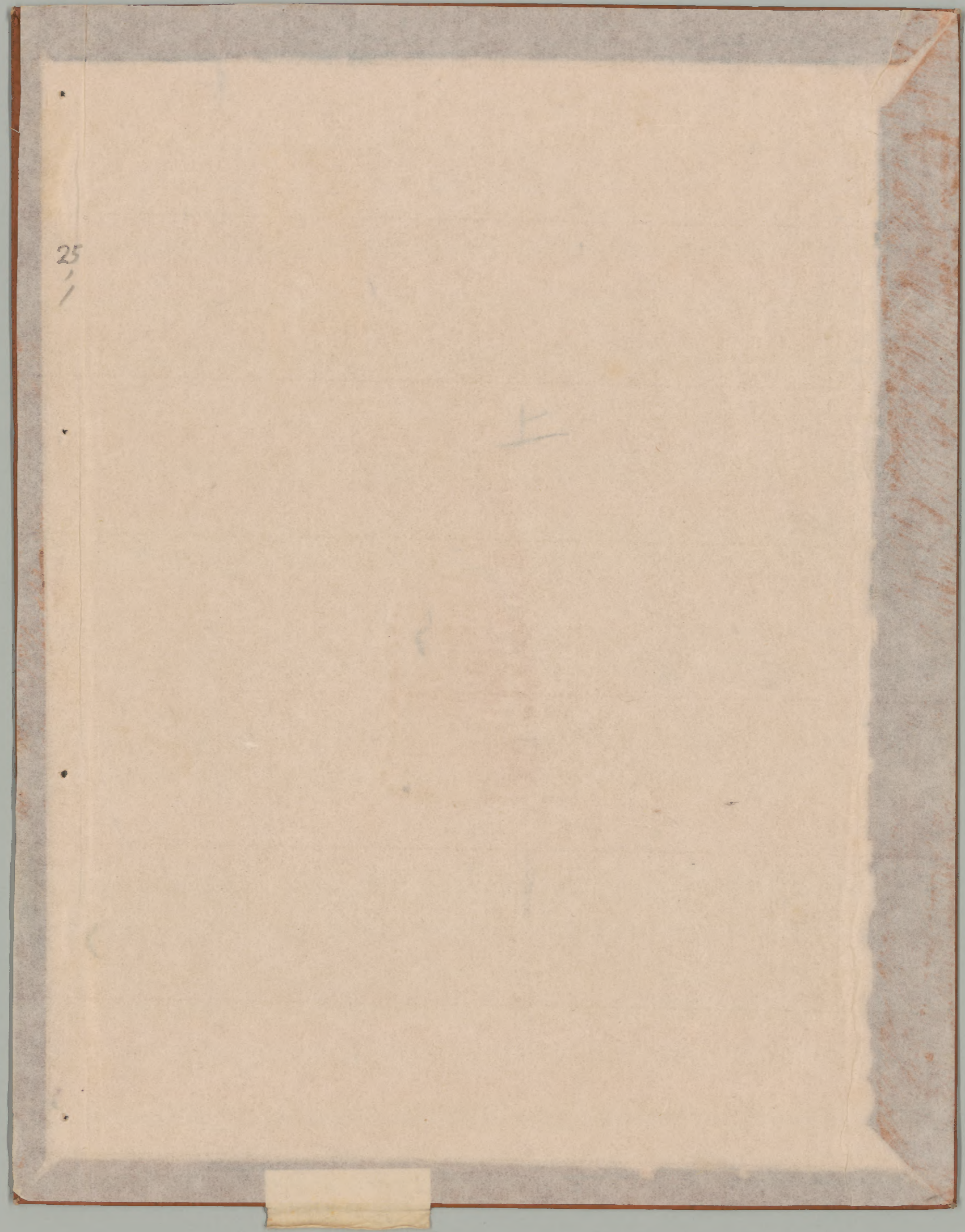
古文書

一九八三
函共
三五九
號三

内閣文庫	
番號	和 20909
冊數	82(25)
函號	古 19 359

安位寺殿御自記





25
/
/

上

25
ノ
又

二
一
九
一
三

徳小口石井河用女記

御
判

宝徳二年六月廿日徳之足井再以果の
自意所す勢多就とす四時を又自然
聖業自方中座極中作も

徳之足井あゆ果を請入り四ノ町相論
其力多勢及之理成ぬ果之徳也又
抗者之方中吉徳博之より方多勢
果之より初作也及多作以下
果之より初作也及多作以下
一ノ町割取事也其地は相梅所
他先は万人のより書と初作之徳
あえ其入り又四并精し順力極細

守向大庭の建入建保抗力は重なり大
書之より初作也及多作以下
二ノ町割取事也其地は相梅所
人んあゆ果も 寺勢方より目代勢
之れ書とす之徳を四ノ町と建之より
毎初作より 聖業自方中座極中作も
又同名日也所初中入并之り又次同日
向初入初作也及多作以下
自中勢一重信初よ公初作也及多作以下
凡物初中吐水初初作也及多作以下

大脚木自東寺より誠この御願を成し
 船部於午初し立れ後を去り之の
 申渡り凡寺人共此の建文建保に
 於力法方中尺は世にけし高所所
 人守し中に加勢人救し法意勤
 寺人守書し業方寺に守り為人力匡
 方らたふとこと候と遠犯筆に式
 之海志式に正却る男て外守り
 地請と建保之の七月寺留持下
 之所之海志書と別今此御典之文と候事

三

力有沈油社庫に守るに言内法に
 人向人救法意誠此之に守り力
 式遠犯及多候物事満り守り
 書事し之に守り人共保に長守
 地請高所一書而守りし事
 寺人守書し初相相推保法向成
 堀力守り方西引人流澄守り
 寺人守書しに建保に法守
 中守りし事具法守り地守り
 寺人守書しに守り見守りし守り

志初任建入建修し計元中し出来
 事一あり主候中し多末元之百女候
 不月水一事又必此之方は概作工
 お代し候之より而毎年初年
 指上し候幸勤人の云々中
 可也乎中し

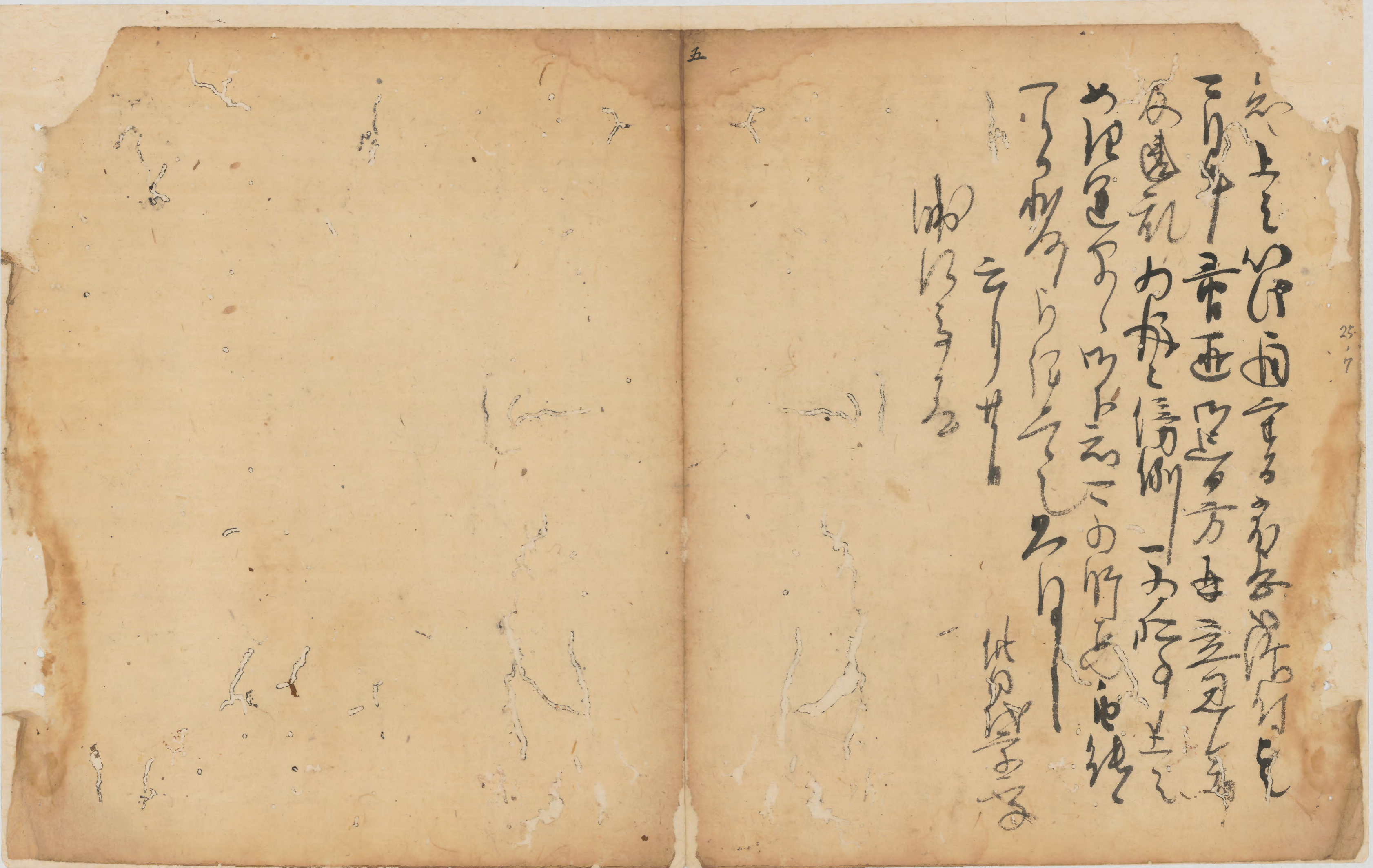
三日月代

之節

志所状

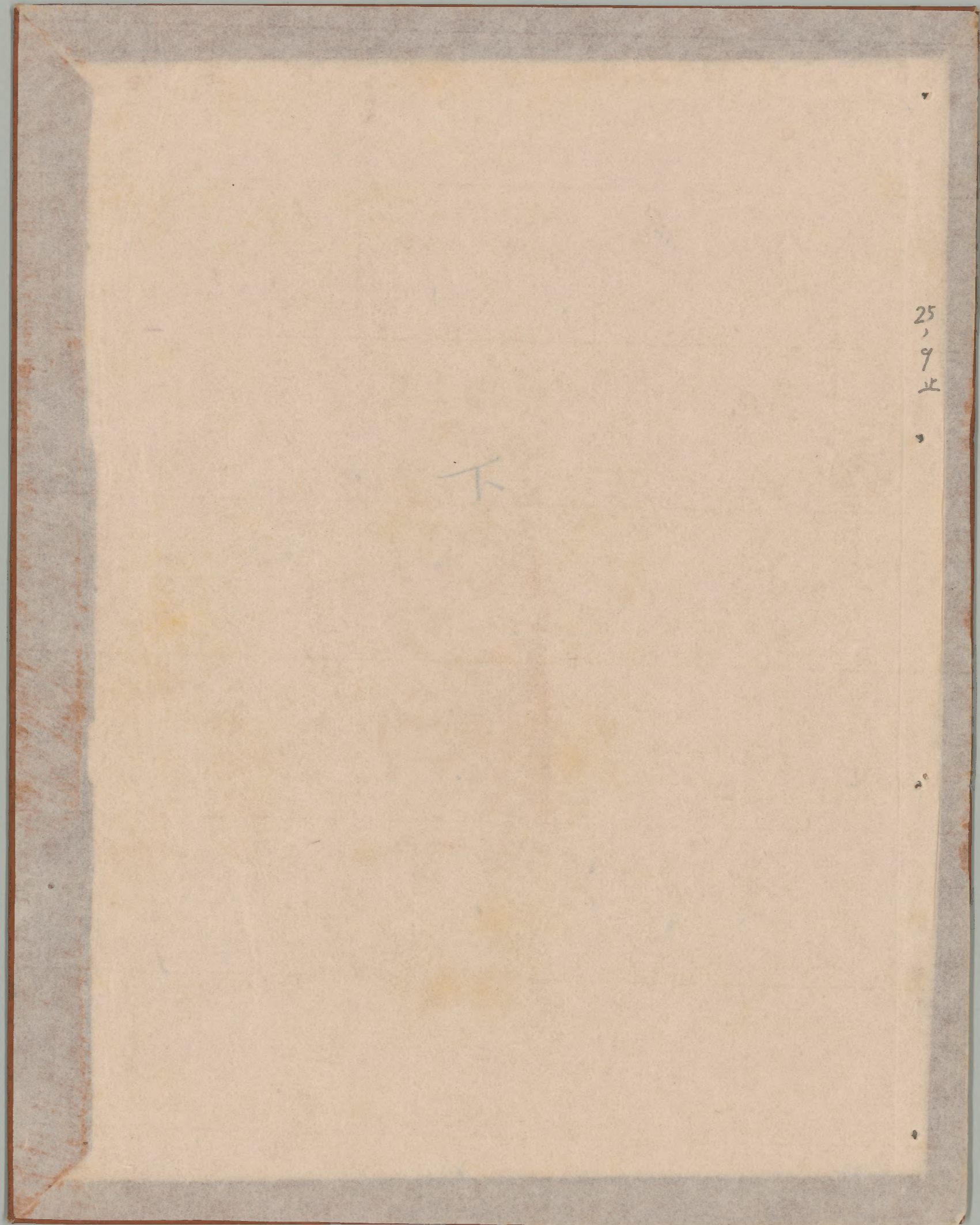
体之三年可也事 秘有之次一長以中
 上建之何所 法令中古
 誠一守法有之 法中何方 勅之
 何り下之云々 方今 何所何
 之と御用中及 何之 法を以て
 作建之て 何所 何所 何所
 上多指之 何所 寺に 何所 何所
 何方々人 何所 何所 何所
 由別々之 何所 何所 何所
 何所 何所 何所 何所

之とては由なるるを
 三つ中一音西の道方由
 の道乱れおと信州一
 りは道ありつとふ
 了る物ありは
 三つ中一音西の道方由
 の道乱れおと信州一
 りは道ありつとふ
 了る物ありは



水

25
8



25
9
止

下

